

会から

○爽かな五月が来ました。一年中で最も快い季節といつていいでしょう、若葉の新緑は地球も衣がえといましようか。目に美しいばかりでなく、盛り上げる活力に到るところ、潑刺として生き／＼しています。子供も衣替え姿に、つんつるてんの初袷せの活気をのび／＼させています。

○三日の「独立祝賀式典」は、ことしの五月を特別の「国の喜び」として、幼児達の心も幼馴染らしい感激に喜ばせたいものですね。毎年の憲法記念日も、幼稚園保育所の祝いの日に相違ありませんが、憲法の喜びを幼い心に分らせる言葉は、必ずしも容易ではありません。それでも、賢明な先生方は、憲法の意味でなく心もちを——先生方自身が胸にもたれる心もちを、幼児の胸にも伝える途を講ぜられるに相違ありませんが、ことしの五月三日は、必ず幼児の心にも生涯の記憶にしてやらなくてはなりません。それには講話では尽せないかも知れません。おとなの歌では感じがないかも知れませんが、日本国民が、この日を幼児として迎え

た感銘が、いつまでもはつきり消えないような印象を与えてやりたいものです。その方法にいろいろ工夫がありましよう、がこの日の先生のお顔の輝きこそ、その最も生き生きした印象でしょう。この日の先生の喜びの色、喜びの声こそ、貴いものですね。○五日のこどもの日は、うんと楽しく祝つてやりましよう。この日の鯉のぼりは、お節句以来の附きものですが、今日新たにこどもの日のものとして考案するとしても、大傑作です。都会の屋根の上でも、山村の森の中でも、こゝに日本のこどもあり(男の子ばかりではありません)と、青空高くひるがえつているところは、なんとこの日にふさわしい光景でしょう。○ことしは、保育のフェスティバルの賑かなことですね。名古屋では保育学会総会があり、松江では保育所大会と、日本保育連合会大会とがあります。主催地、殊に二つの大会を引受けられる、松江の方々の御苦労は大したことですね。諸会に次々に出席せられる、保育関係諸君もお忙しいことです。たゞ、われ／＼保育所と幼稚園に対し、日頃日本の幼児保育のた

めの協力機関として同一関心を寄せているものには、何んとなく、蕪村の句が思いだされます。

さみだれや大河を前に家二軒

また、こんな静かな句もあります。

落ち合ふて音なくなれる清水哉

いづれも折りからの季の句ですが、どつちの句がおすきは、人さま／＼ですね。

幼児の教育 第三卷 第五號

定価 金五拾円

昭和二十七年五月二十日發行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉橋 惣三

發行者 倉橋 惣三

東京都文京区大塚町三十五

お茶の水女子大学附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

印刷所 東京都板橋区志村町五番地

東京都千代田区神田保町二ノ四

發賣所 株式會社 フレーベル館

振替東京一九六四〇番

○本誌御購置について注文申込その他はすべて發賣所「フレーベル館宛」に願います。